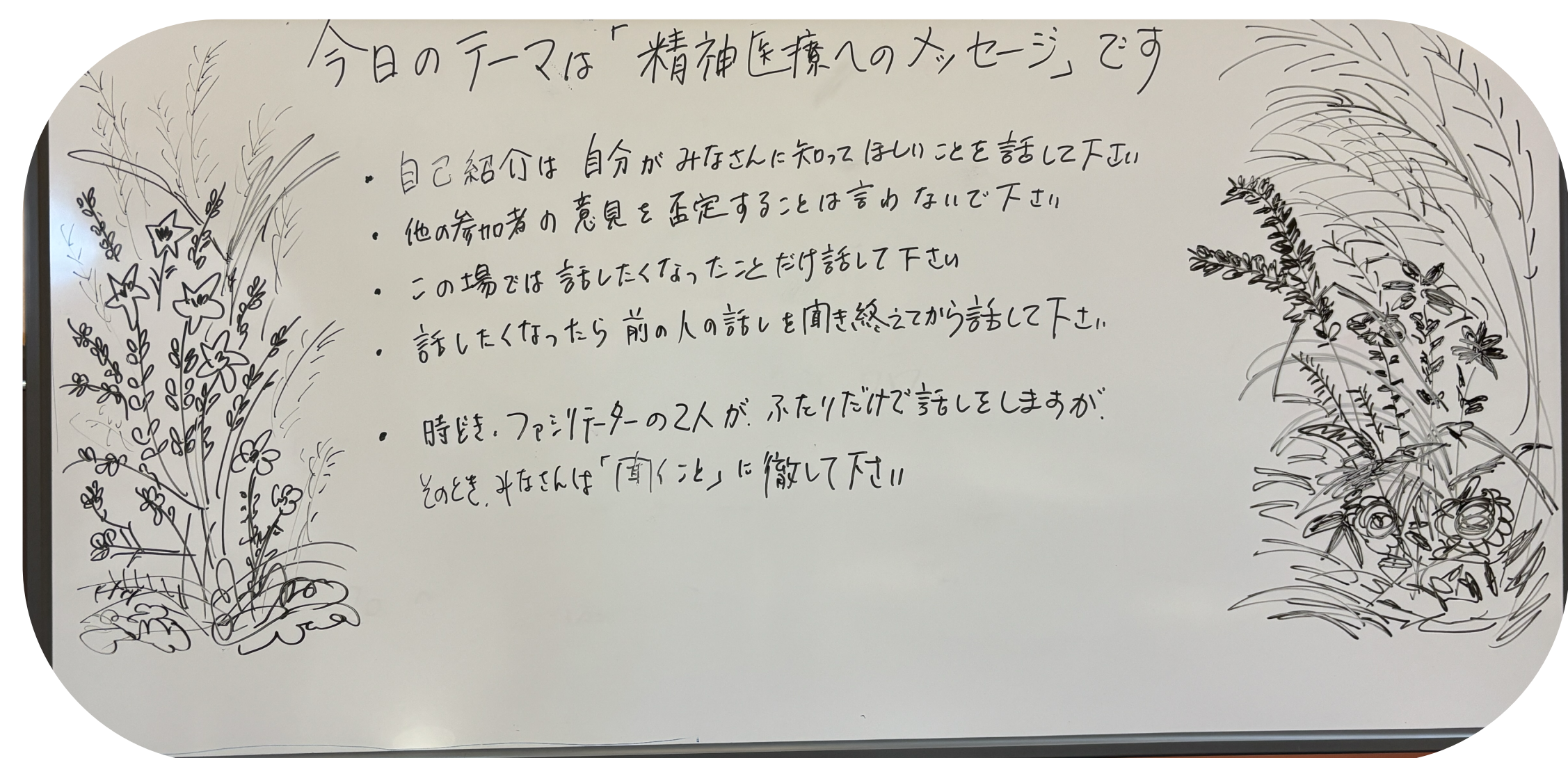


第1回 対話ミーティング

A R Tメンバー：8名（研究メンバー2名含む）



参加者がこれまで取り組んできたこと

- 経験専門家としてオンラインで相談などのダイアログの3年間ファシリテーターとして取り組んできた
- ひきこもっている方、そのご家族への支援を積み重ねている
- 自分から信念をもって何かに取り組み始めたことはないかもと今思っている
- 救急病棟でも慢性期開放・閉鎖病棟でも当事者と一緒に考える場、コミュニティミーティングなどを大切にとりくんできた
- 多職種と仕事をともにすることで看護師を育てることに力を尽くしてきた
- 精神科看護の世界で仕事、病棟勤務から訪問看護に挑戦している

精神科医療へのメッセージ

参加者と考えたい内容やテーマ

退院促進が進まないのは患者さんが外の世界に出ることを必要だと思っていないこと、受動的な人生を生きることがあるのかと、今回学んだ。そのことについて考えてみたい

精神医療が必要な方に寄り添う事業を考えていきたい
他の方が考えていることをどのように行動に展開していけるのかを聞かせてもらいたい。

今日のひきこもり支援のお話も気になった、

参加者の現場で起きていること、感じていることをもっと知りたい

オープンダイアログの基本（ルールでよいのか）について語り合いたい

本日のミーティングで感じたこと・考えたこと・気づいたこと

- 楽しかった。少し自分本位に話過ぎたかもしれない
- 話を交わすことに一定程度の枠があるという安心感から思ったこと感じたことを発言できた。
- 長期入院の方の話、グループホームに退院したがそのあとに泣いていた患者、病棟のさまざまなルールのことなど私たちが考え続けるべきことであり、「看護師が変わらないと！」との意思を持たれていることにとても同感した。
- 話を聞きながら自分の問題意識が明確になっていきました。もっと深く話し合いたい気持ちがあったのだが「時間が足りない!!」と感じた。
- “対話”という言葉ではあったが、会はオープンダイアログ的に進行了。自分の伝えたいことを短く手早く言わないと時間がないなかで、私は思考のペースがのんびりなので、話の流れについていけなかった部分があった。

今後、自分の活動やこの会で取り組んでみたいと思ったこと

- 夫と一緒にリスニング・ファーム支部を立ち上げたいと思っている
- 訪問看護ステーションを活動している地域において開設したい
- すっと思い浮かばない
- 目指すは治療共同体と思っていたが、今回参加して改めて立ち止まって考えられた。（日常の中では立ち止まって考えられないと思った）
- 兵庫県下においてひきこもりの支援ネットワークと家族会の構築
- 患者さんが自分で人生のルールをひけるような支援、やはり当事者と一緒に考え続けたい
- 虐待とか拘束とか、地域看護とかはじめにテーマがあるともう少し具体的に話せるのではないか
- 今はない

- ・ 隔離拘束について
- ・ 長期入院について
- ・ 地域と病院との関係について